

**アクリノール・亜鉛華軟膏**

Acrinol and Zinc Oxide Ointment

アクリノール酸化亜鉛軟膏

**製法**

アクリノール，微末	10 g
亜鉛華軟膏	990 g
全量	1000 g

以上をとり，軟膏剤の製法により製する。

**性状** 本品は黄色である。

**確認試験**

- (1) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 5 mL，希塩酸 5 mL 及び亜硝酸ナトリウム試液 2～3 滴を加えて振り混ぜ，放置するとき，水層は暗赤色を呈する（アクリノール）。
- (2) 本品 0.5 g を強熱して灰化し，残留物を希塩酸 5 mL に溶かした液は亜鉛塩の定性反応を呈する。
- (3) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 5 mL，酢酸 (100) 1 mL 及び水 5 mL を加えて振り混ぜた後，水層を分取し，試料溶液とする。別にアクリノール 5 mg を酢酸 (100) 1 mL 及び水 5 mL に溶かし，標準溶液とする。これらの液につき，薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にジエチルエーテル/エタノール (95) /酢酸 (100) 混液 (40 : 10 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後，薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 365 nm）を照射するとき，試料溶液及び標準溶液から得たスポットは，青色の蛍光を発し，それらの  $R_f$  値は等しい。

**貯法**

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

**アクリノール・チンク油**

Acrinol and Zinc Oxide Oil

**製法**

アクリノール，微末	10 g
チンク油	990 g
全量	1000 g

以上をとり，研和して製する。

**性状** 本品は黄白色の泥状物で，長く静置するとき，成分の一部を分離する。

**確認試験**

- (1) 本品 1 g にジエチルエーテル 10 mL，酢酸 (100) 2 mL 及び水 10 mL を加えてよく振り混ぜ，水層を分取する。これに塩酸 5 mL 及び亜硝酸ナトリウム試液 2～3 滴を加えて振り混ぜ，放置するとき，液は暗赤色を呈する（アクリノール）。
- (2) 本品 1 g をるつぼにとり，加温して融解し，徐々に温度を高めて全く炭化し，更にこれを強熱するとき，黄色を呈し，冷えると色は消える。残留物に水 10 mL 及び希塩酸 5 mL を加え，よく振り混ぜた後，ろ過し，ろ液にフェロシ

アン化カリウム試液 2～3 滴を加えるとき，白色の沈殿を生じる（酸化亜鉛）。

- (3) 本品 0.2 g にエタノール (95) 20 mL 及び酢酸 (100) 1 mL を加えてよく振り混ぜ，遠心分離した後，ろ過し，ろ液を試料溶液とする。別にアクリノール 5 mg をエタノール (95) 50 mL 及び酢酸 (100) 2.5 mL に溶かし，標準溶液とする。これらの液につき，薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 2-プロパノール/酢酸 (100) 混液 (9 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後，薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 365 nm）を照射するとき，試料溶液及び標準溶液から得たスポットは，青色の蛍光を発し，それらの  $R_f$  値は等しい。

**貯法**

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

**複方アクリノール・チンク油**

Compound Acrinol and Zinc Oxide Oil

**製法**

アクリノール，微末	10 g
チンク油	650 g
アミノ安息香酸エチル，細末	50 g
サラシミツロウ	20 g
親水ワセリン	270 g
全量	1000 g

以上をとり，研和して製する。

**性状** 本品は淡黄色～黄色である。長く静置するとき，成分の一部を分離する。

**確認試験**

- (1) 本品 1 g にジエチルエーテル 10 mL，酢酸 (100) 2 mL 及び水 10 mL を加えてよく振り混ぜ，水層を分取する。これに塩酸 5 mL 及び亜硝酸ナトリウム試液 2～3 滴を加えて振り混ぜ，放置するとき，液は暗赤色を呈する（アクリノール）。
- (2) 本品 1 g をるつぼにとり，加温して融解し，徐々に温度を高めて全く炭化し，更にこれを強熱するとき，黄色を呈し，冷えると色は消える。残留物に水 10 mL 及び希塩酸 5 mL を加え，よく振り混ぜた後，ろ過し，ろ液にヘキサシアノ鉄 (III) カリウム試液 2～3 滴を加えるとき，白色の沈殿を生じる（酸化亜鉛）。
- (3) 本品 0.2 g にエタノール (95) 20 mL 及び酢酸 (100) 1 mL を加えてよく振り混ぜ，遠心分離した後，ろ過し，ろ液を試料溶液とする。別にアクリノール 5 mg 及びアミノ安息香酸エチル 0.025 g をそれぞれエタノール (95) 50 mL 及び酢酸 (100) 2.5 mL に溶かし，標準溶液 (1) 及び標準溶液 (2) とする。これらの液につき，薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次に 2-プロパノール/酢酸 (100) 混液 (9 : 1) を展開溶媒として約 10

cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 365 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液（1）から得たスポットは青色の蛍光を発生し、それらの  $R_f$  値は等しい。また、紫外線（主波長 254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液（2）から得たスポットは、紫色を呈し、それらの  $R_f$  値は等しい。

#### 貯 法

保存条件 遮光して保存する。

容 器 気密容器。

## アセンヤク

Gambir

**GAMBIR**

阿仙薬

ガンビール

本品は *Uncaria gambir* Roxburgh (*Rubiaceae*) の葉及び若枝から得た乾燥水製エキスである。

性 状 本品は褐色～暗褐色の碎きやすい塊で、内部の色は淡褐色を呈する。

本品はわずかににおいがあり、味は極めて渋く苦い。

#### 確認試験

(1) 本品の粉末 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で時々振り混ぜながら 5 分間加温した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2～3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は白色の沈殿を生じる。

(2) 本品の粉末 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、2 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えるとき、液は淡赤色～赤褐色を呈する。

灰 分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 70.0 % 以上。

## アセンヤク末

Powdered Gambir

**GAMBIR PULVERATUM**

阿仙薬末

ガンビール末

本品は「アセンヤク」を粉末としたものである。

性 状 本品は赤褐色～暗褐色を呈し、わずかににおいがあり、味は極めて渋く苦い。

本品をオリブ油又は流動パラフィンに浸して鏡検するとき、針状結晶の塊又は黄褐色～赤褐色の有角性の破片からなり、表皮組織及び厚膜化した毛を認める。

#### 確認試験

(1) 本品 0.2 g に水 10 mL を加え、水浴中で時々振り混ぜながら 5 分間加温した後、ろ過し、冷後、ろ液にゼラチン試液 2～3 滴を加えるとき、液は白濁するか又は白色の沈殿を生じる。

(2) 本品 0.1 g に希エタノール 20 mL を加え、2 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液 1 mL に希エタノール 9 mL を加えた液 1 mL にバニリン・塩酸試液 1 mL を加えると

き、液は淡赤色～赤褐色を呈する。

灰 分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 70.0 % 以上。

## 亜ヒ酸パスタ

Arsenical Paste

本品は定量するとき、三酸化ヒ素 ( $As_2O_3$ : 197.84) 36.0～44.0 % を含む。

#### 製 法

三酸化ヒ素、細末	40 g
塩酸プロカイン、細末	10 g
親水軟膏	30 g
チョウジ油	適量
薬用炭	適量
全 量	100 g

「三酸化ヒ素」及び「塩酸プロカイン」をとり、「親水軟膏」と混和し、「チョウジ油」を加えて適当の稠度とした後、「薬用炭」を加えて着色する。

性 状 本品は灰黒色で、チョウジ油のにおいがある。

#### 確認試験

(1) 本品 0.1 g を小フラスコにとり、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 5 mL を加え、直火で加熱し、反応液が無色となり白煙を生じたとき、冷却し、注意して水 20 mL 中に加え、温時、硫化水素試液 10 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じる（三酸化二ヒ素）。

(2) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 25 mL、希塩酸 5 mL 及び水 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取し、ろ過する。ろ液は芳香族第一アミンの定性反応を呈する（塩酸プロカイン）。

(3) 本品 0.5 g にジエチルエーテル 25 mL 及び水 25 mL を加えてよく振り混ぜた後、水層を分取し、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に塩酸プロカイン 0.01 g を水 5 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5)/アンモニア水 (28) 混液 (50:5:1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットの  $R_f$  値は等しい。

定 量 法 本品約 0.3 g を精密に量り、150 mL のケルダールフラスコに入れ、発煙硝酸 5 mL 及び硫酸 10 mL を加えてよく混ぜ、注意して初め弱く、後に強く加熱する。赤色の酸化窒素ガスの発生が少なくなったとき、加熱をやめ、冷後、更に発煙硝酸 5 mL を加えて再び加熱し、赤色の酸化窒素ガスの発生がやみ、反応液が澄明になったとき、加熱をやめて放冷する。次にシュウ酸アンモニウム飽和溶液 30 mL を加え、再び加熱して硫酸の白煙が発生してから、更に 10 分間加熱し、シュウ酸を完全に分解する。冷後、あらかじめ水 40 mL を入れた共栓フラスコに無色の反応液を注意して移し、ケルダールフラスコを水 60 mL でよく洗い、洗